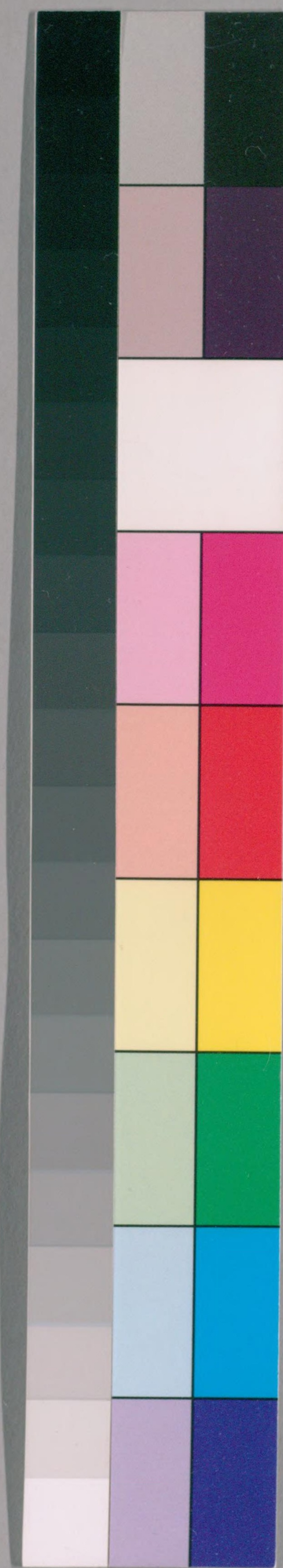


863
56



国立国会図書館 タイトル『支干考』 請求記号 863-56

ガラス使用

三汝圭先生出生畫

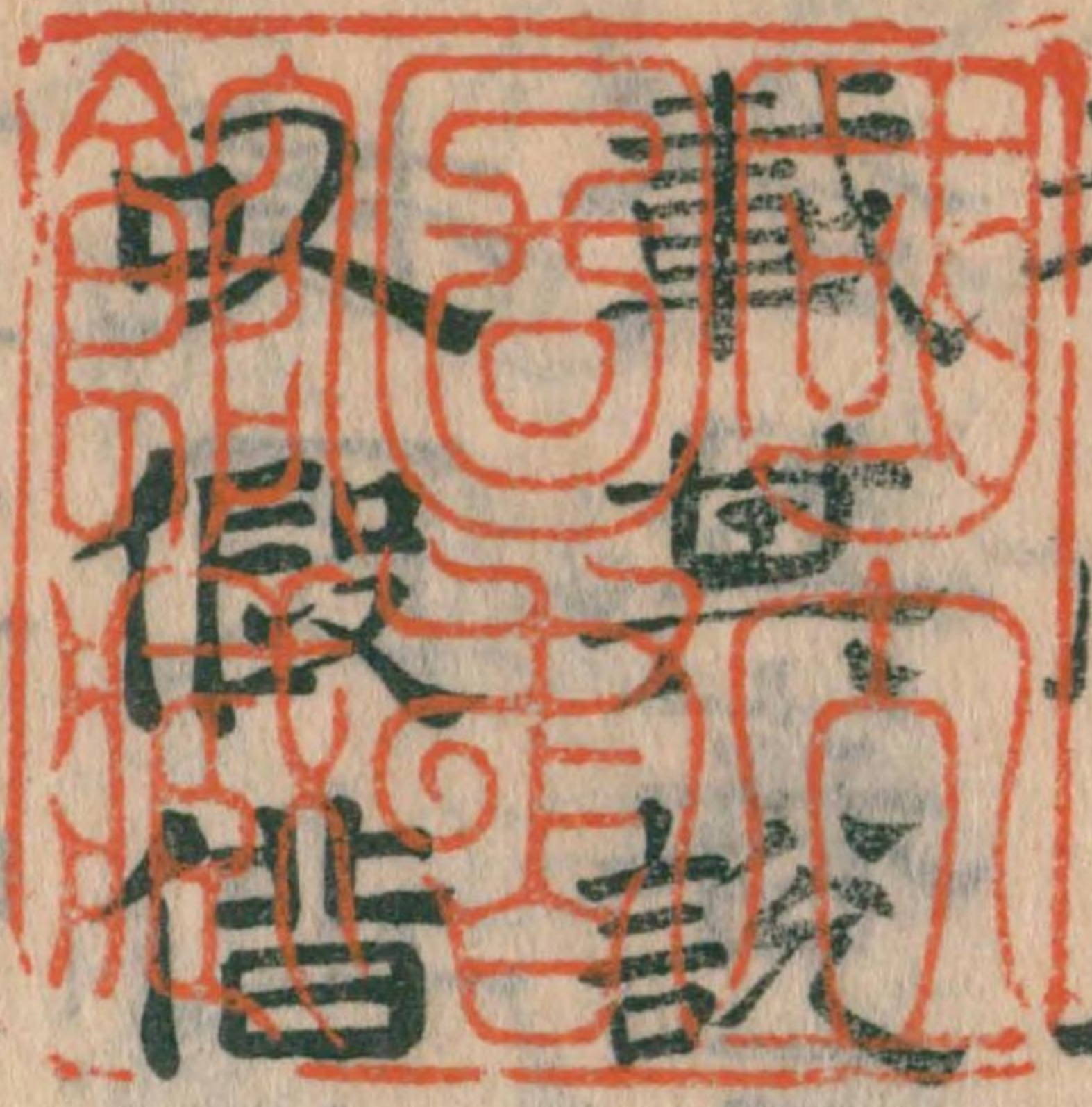
鶴磯齋藤先生撰

支干考

不許翻刻
千里必究

863-56

支干之名肇於太古而爾雅有
釋歲史書漢志淮南鴻烈之類
載其說鄭樵節瑛大儒也而皆
以假借為解寧強附會亦又不
少余爰滕竺休教授出暇每讀
古書有其可為證者則抄而錄



之而又加亡改覈焉其義明且
盡矣嗚呼如止休則得不謂大
撓臣止忠臣耶

癸丑春三月

龍淵森巖子咏識

華溪稻貞隆書

支干考

我友藤之休之誘掖門人小子也孰先
傳焉孰後倦焉今以茲撰支干考以諄教
而不倦焉蓋支干也者日用之不可以已
者也故曰九年于教之數日夫教數日而
不辨其物也猶衣服在躬而不知其
名矣可不謂罔也哉今乃之休名狀
其物不敢取諸臆必徵諸古書又附國
字以譯其誼而使見曹且使其所友

善之太復因其象為太復亦從游藝
寫貌傳心在何堵中則使小子玩索
而不厭也老成亦將無觀而起予邪或
雖謂之戲乎余則以為非也何別耳而
學為孰與目睹而意解也詩云善戲謔
兮不為虐兮之休有為近世豎儒小者
才而唯哺啜是謀冠章甫衣逢掖
而與賤丈夫爭利於龍斷也索隱述
怪好言羨言不啻自其口出或筆之

書動輒歷誣先儒以誤後生遂使妄
語見吠其所怪矣何其陋也哉之休別
異於是業已業儒寒素務博妻雖
飢乎見雖寒乎窮居晏如不敢憚
削於意也唯以著作為娛又諄諄誘掖
門人小子而不倦焉斯余之所以為友
也又所以為之序也

東都 櫟岡瀨觀撰

釋賢照書

山... 八... 贈... 異... 請... 書...

支干考

武藏

鶴磯齋藤敬天著

男得衆校

大島光福校

世本曰大撓造甲子呂氏春秋曰黃帝師大撓黃帝內傳曰帝既
斬蚩尤命大撓造甲子正時月令章句曰大撓揆五行之情占斗
剛所建於是始作甲乙以名日謂之幹作子丑以名月謂之支支
幹相配以成六旬事物紀原事文類聚律歷志ノ注ニ引トコロ
同此ニ引トコロノ呂氏春秋今行ノ書ト
○律歷志黃帝使羲和占日常儀占月史區占星氣伶倫造
律呂大撓作甲子隸首作算數容成綜以六術而著調歷也○胡
氏皇王大紀軒轅命師大撓氏正甲子○劉氏通鑑外紀黃帝命



大撓探五行之情。占斗剛所建始作甲子。○春秋左氏傳孔穎達曰。日之先後無所分明。故聖人作甲乙以紀之。○史記律書註。楊慎曰。十干母也。十二支子也。○周禮春官馮相氏云。十有二辰。十日。賈公彥疏曰。十有二辰者。謂子丑寅卯之等十日者。謂甲乙丙丁之等。○素問六節藏象論。天有十日。日六竟。而周甲又本病論。天地二甲子十干十二支。○五行大義。支干者。因五行而立之。昔軒轅之時。大撓之所制也。○禮月令。春其日甲乙。夏其日丙丁。中央其日戊己。秋其日庚辛。冬其日壬癸。春木。夏火。秋金。冬水。淮南子天文訓。甲乙木也。丙丁火也。戊己土也。庚辛金也。壬癸水也。○呂覽。同左傳。昭公元年。杜注。辛。白酸。

色青。鹹色黑。苦色赤。甘色黃。○天中記。ニ引トコロノ蔡邕獨斷。ニ干幹也。其名有十。亦曰十母。即甲乙丙丁戊己庚辛壬癸是也。ト今有トコロノ獨斷。ニエス。又邵康節ノ皇極經世書。ニ十干天也。十二支地也。支干配天地之用也。ト又曰。干者幹之義。陽也。支者枝之義。陰也。干十而支十二。是陽數中有陰。陰數中有陽也。ト云リ。イヅレ十干ハ日ニ属シテ陽ナリ。十二支ハ月ニ属シテ陰ナリ。干ハ木ノミキ支ハ枝ニシテ干支合シテヨク用シ成ノ意ナリ。然何ノ世ヨリ干支ノ称有ラシラス。黄帝ノ時始トイフヲ。攪アリト先イハンカ。

十干
甲乙丙丁戊己庚辛壬癸
 木火土金水
 木火土金水



甲 史記律書甲者言萬物剖符甲而出也。○索隱符甲猶字甲。○漢書律歷志出甲於甲。正月ノ比艸木ノ未生出スジテ皮ヲ被タルハ其形甲ノ著タルニ似タル故甲ト名ツク

乙 律書言萬物生軋軋也。○律歷志奮軋於乙。○白虎通乙者物蕃屈有節ト。二月ノ比草木土ヲ軋テ出ノ意ナリ

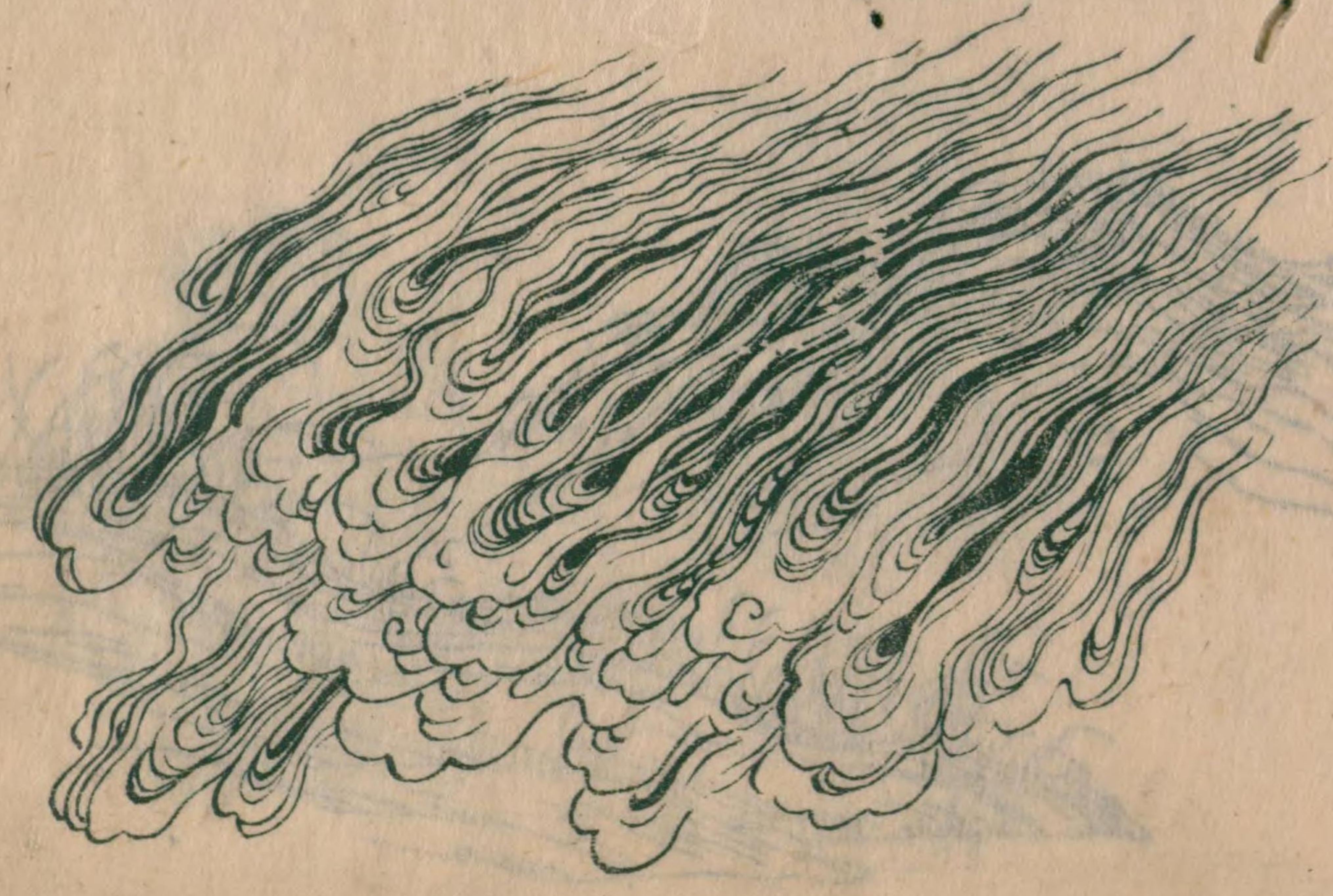


小西堂

丙 律書言陽道著明故曰丙。○律歷志明炳於丙。○釋名丙炳也。物生炳然皆著見也。ト陽氣シタイニ著アラハレ明ニナルノ義ナリ

丁 律書丁者言萬物之丁壯也。故曰丁。○律歷志大盛於丁。○釋名丁壯也。ト萬物艸木ニ至マテ枝葉子ンコロニ盛ニナルノ義ナリ

戊 律歷志豐楙於戊。○月令註戊之言茂也。萬物枝葉皆茂盛。○瑯琊



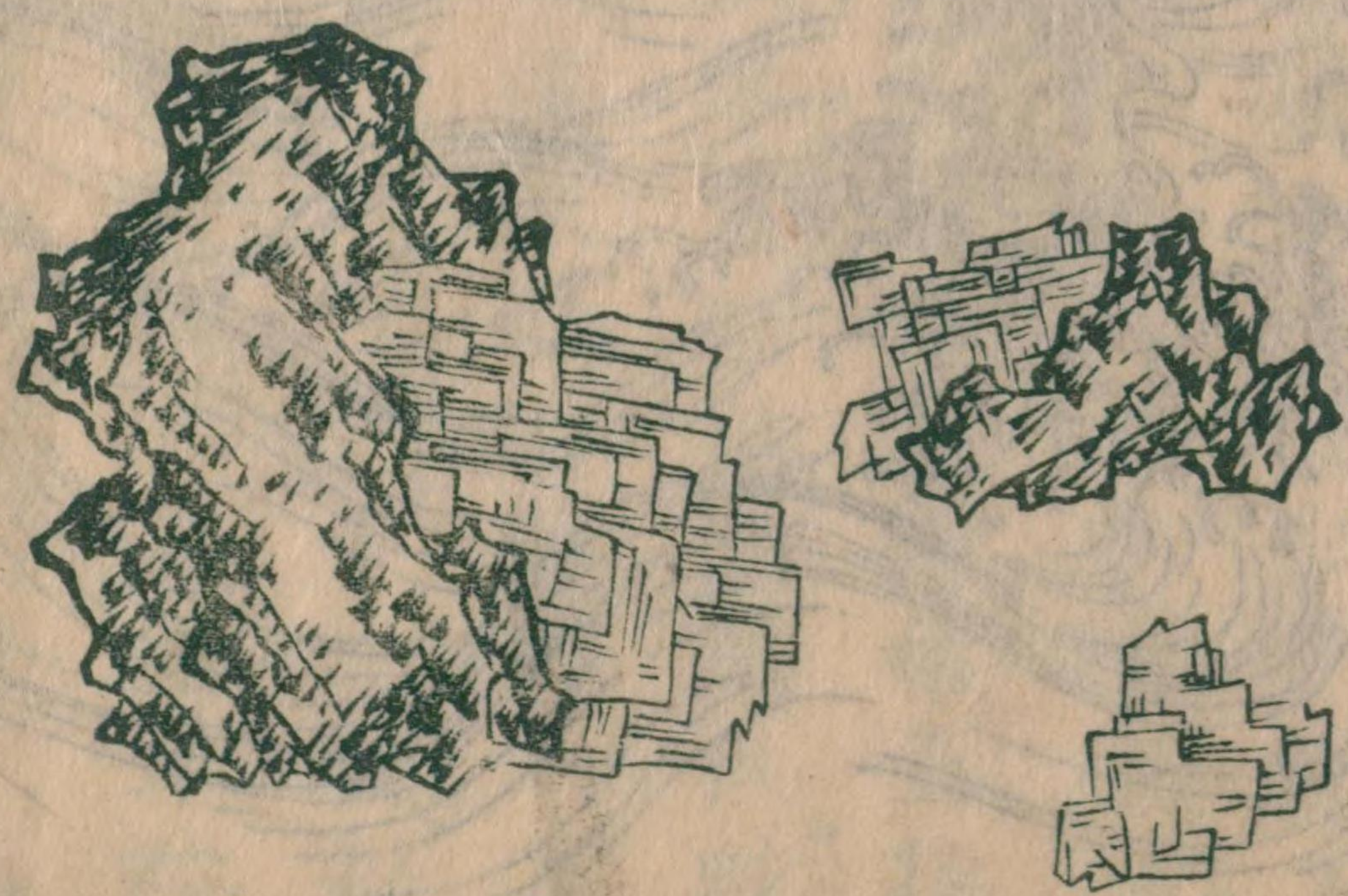
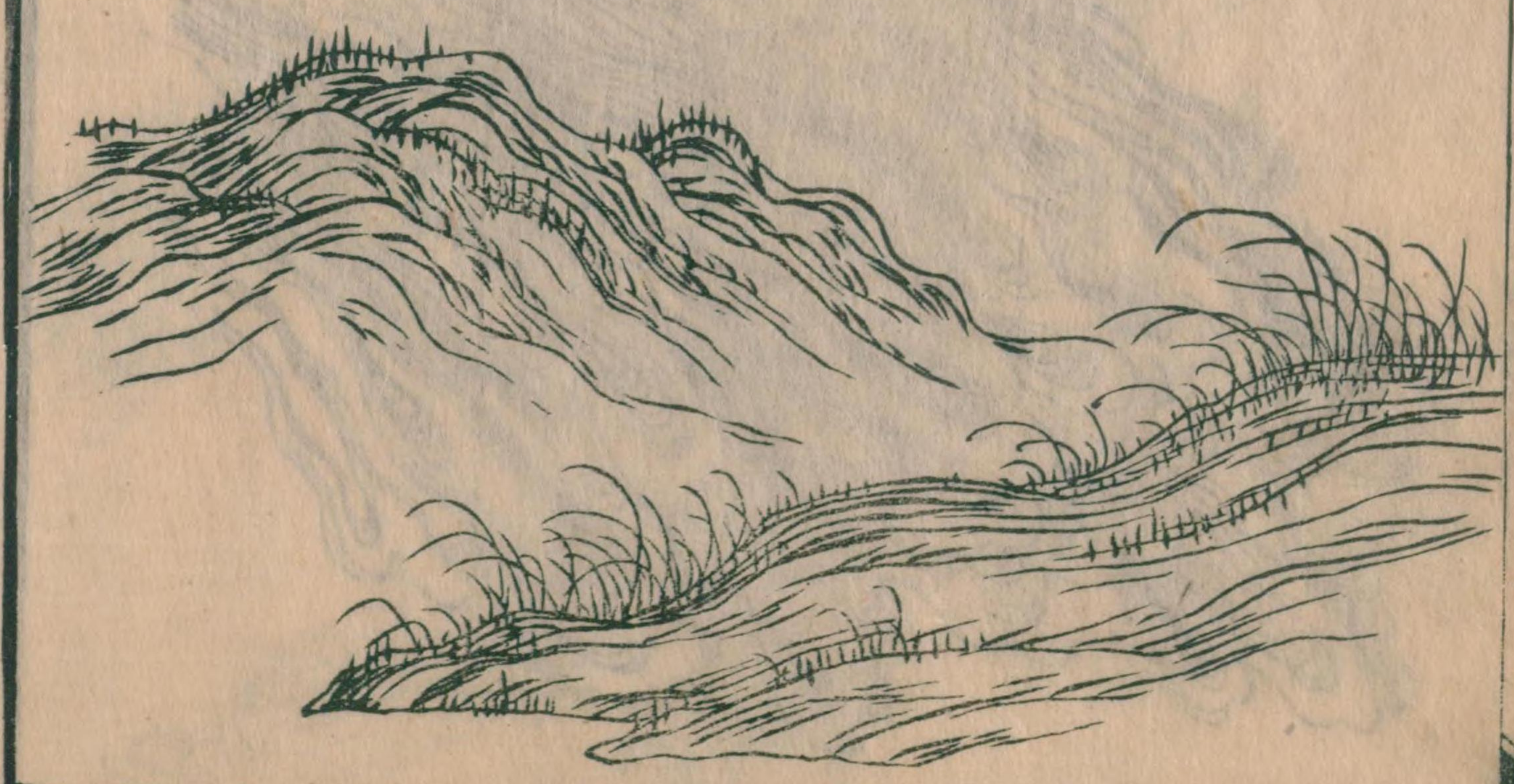
代醉編戊字與茂同音トイツレ物ノ茂ル意ニテ夏六月ノ時艸木ノヨク盛ニナルナリ

己 釋名己紀也皆有定形可紀識也○月令註其含秀者抑屈而起白虎通○類書纂要己者已也止也言陰氣殺物物將收成也ト萬物ノ皆土ヨリ起ノ意ナリ

庚 律書庚者言陰氣庚萬物故曰庚○釋名庚猶更也庚堅強貌○月

令註庚之言更也萬物皆肅然改更ト夏盛ニ茂タル艸木ノ秋ニナリテ色ヲ更テ紅葉シ暑モ漸ニ冷ナリテ萬物カハリユク意ナリ

辛 律書辛者言萬物之辛生故曰辛○律歷志悉新於辛○白虎通辛者陰始成也○釋名辛新也初新者皆收成也○說文秋時金剛味辛ト金ノ味カラシ故ニ辛ト名ツケタルナリ七月ハ物未熟セスシテ



味淡シ八月ニ至テヨク悉新ニナル意ナリ

壬 律書壬之爲言任也言陽氣任

養萬物於下也○律歷志懷任於壬

ト明年春ヲ待テ生出ヘキ艸木ヲ

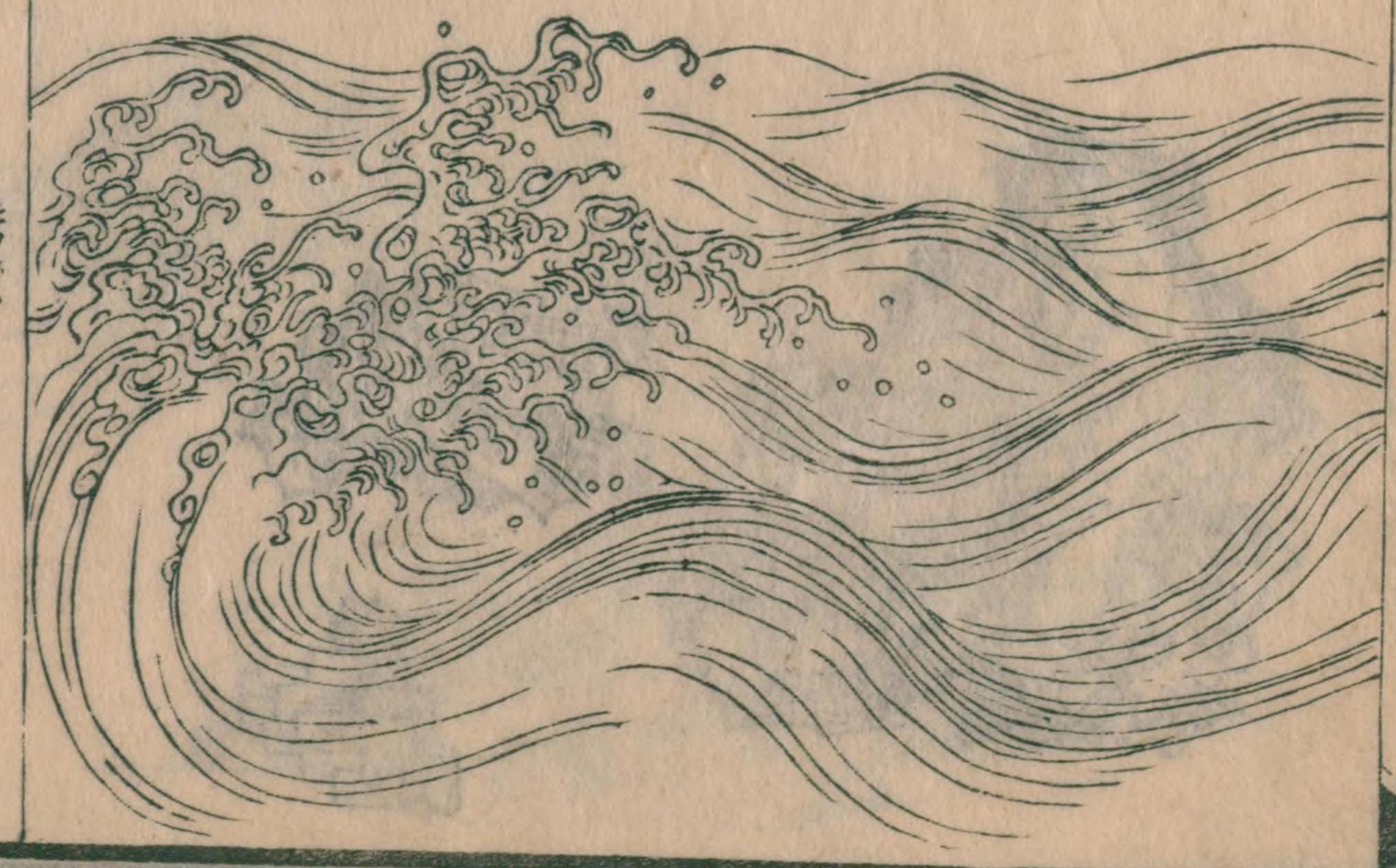
土中ニ陽氣アリテ養ノ意ナリ

癸 律書癸之爲言揆也言萬物可

揆度也故曰癸○釋名揆度而生乃

出之也○月令註揆然萌芽ト土中

ニ在艸木ノ陽氣ノ來ヲ待推量テ生出ント催ヲ揆トイフ



○十二支ノ義十干ト共ニ配シテ史記ハ律書及律歷志ニ出

イハ凡ク夕獸虫ノ類ヲモテ相属スルハ詩禮易春秋等ニ其

證アリテ却テ古ナルヘシ王充論衡物勢篇ニモ獸虫ノ説

載タリ又何氏餘冬序録ニ十二相属取義子寅辰午申戌俱陽

故取相属之奇數以爲名鼠五指虎五指龍五指馬單蹄猿五指

狗五指丑卯巳未酉亥俱陰故取相属之偶數牛四爪兔兩爪蛇

雙舌羊四爪雞四爪猪四爪トアリ載洪異漫録宋人賜谷漫録ニモ

此事ヲ載タリ又葉氏艸木子ニ術家以十二生肖配十二辰每

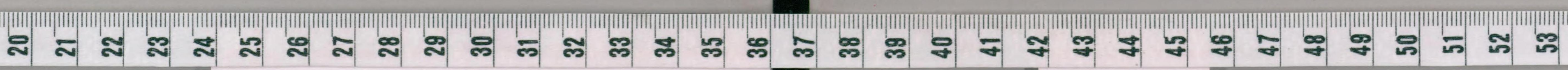
月各有不足之形焉如鼠無牙牛無齒虎無脾兔無唇龍無耳蛇

無足馬無膽羊無神猴無臀雞無腎犬無腸猪無筋人則無不足



也ト又陸氏春風堂隨筆ニモ十二生肖ヲ鮮タリ又張鼎思ノ
 代醉編ニモ生肖ノ属スル所漢ノ時已ニ其説アリ又朱氏曲
 洧舊聞ニ宋ノ徽宗ノ初范致虚トイフ者上言ケルハ十二宮
 ノ神狗ハ戌ノ位ニ居テ狗ハ天子ノ初生タマフ歳十リ今京
 師ニ狗ヲ屠フヲ業トスル者アリ宜狗ノ屠費ヲ禁シ止ヘシ
 ト因テ天下狗ヲ殺フヲ禁シタリ天下ノ學者初コレヲ聞テ
 宣言ス今朝廷ノ事皆先帝神宗ノ事ヲ紹述タマフ神宗戊子
 ノ歳ニ生タマヘ凡當年イマタ猫畜フヲ禁スルヲ聞スト
 此ニ因テミレハ獸虫ノ類ニ象一一同ニ流布スルヲナリ何
 經書等ニ其證有テ王充モ亦コレヲ言リ周ノ時其證アレハ

古昔ヨリ獸虫ニ當テ知ヘシ孫真入ノ千金方ニ禁食本命肉
 ノ説アリ鍼灸大成ニモ説アリ大集經ニ十二支ヲ十二獸ニ
 ナシ十二獸日ニ行ニ十二時ニ行事ヲ説ク夕止觀輔行ナド
 ニモ説リヨク考見ヘシ其外星禽ノ説三十六禽ノ説ハ是ニ
 ツタク附會ノ説取ニタラス
 十二支 十二支ヲ世俗エト云ハ誤ナリエトハ
 十干ノ一ナレヘシ上ノ十干ト合ミルヘシ
 子 律書子者滋也滋者萬物滋於下也○律歷志孳萌於下○
 白虎通孳也孳孳無已也ト子ハ北方ノ位十一月律黃鐘ニ
 中ル 白虎通黃中和之言陽氣
 於黃泉之下動養萬物也
 字ノ意ニ見ル滋ハ益ナリ萌ハ始テ生スルナリ言ハ十一月



冬至ノ日一陽始テ生シ。萬物地下ニ益始テ生スルナリ。滋ニ益多蕃ノ義ヲ含萬物ニカケテ見ルナリ。子ヲ鼠ト云ハ易說卦ニ艮爲鼠ト艮東北之卦也萬物之所成終而所成始也故曰成言乎艮ト此陰ヨリ陽ヲ生スルノ義ニシテ亥ノ月ニ終ヲ成テ子ノ月ニ至テ始ヲ成ナリ是子ヲ鼠ト云ノ證ナリ康熙字典ニモ鼠ハ十二生肖ノ首トアリ

○
 丑 律書丑紐也言陽氣在上未降萬物厄紐未敢出○釋名丑紐也寒氣自屈紐也ト丑ハ十二月律太呂ニ中ル也白虎通太呂也呂拒也言陰不許也
 地澤臨ノ卦ナリ丑ノ字ヲ紐ノ字ノ意ニ見ナリ紐ハ結ナリ結レテ解サルノ意ナリ陽氣在上トハ一陽既

癸丑春三月望筆於
 寶善草堂中

汝圭





二子ニ生ス。丑ニ至テ又長ジテ上テ上ニ在ナリ。萬物厄紐ス
 トハ萬物ク、ラレ難義スルノ義陰氣盛ニシテ陽氣成長セ
 ザレハ陰氣ニラサヘラレ萬物舒長スルヲアタハス。屯難シ
 テ苦ナリ。大玄經ノ註ニ丑之言畜也。畜養萌芽也ト云リ萬物
 厄紐未取出ノ中ニ萌芽ヲ養テ正月ヲ待テ見ントスルノ意
 ナリ。丑ヲ牛ト云ハ禮ノ月令ニ季冬月出土牛送寒氣ト其證
 有テ見ヘシ。王氏困學紀聞ニ此コト云リ
 寅 律書萬物始生蟥然也。故曰寅。○律歷志引達於寅。○釋名
 寅 演也。演生物也。ト寅ハ正月律泰簇ニ中ル。白虎通泰者大也。
 始大湊地。 寅ハ正月律泰簇ニ中ル。白虎通泰者大也。
 而出也。 寅ハ正月律泰簇ニ中ル。白虎通泰者大也。
 地天泰ノ卦ナリ。蟥ハ蚯蚓ミ、ツノヲナリ引





延シテ伸ル虫ナリ。延テ長ナルニ況テ蟻然タルナリト云リ。
 丑ノ時萬物地中ニ厄紐レテ未出ズ。正月寅ニ至テ陽氣大ニ
 進テ萬物ヲ地上ニ引出シ生ズ。艸木ノ芽ノ地上ニアラハレ
 生ズル如伸ヤカニナルナリ。寅ヲ虎ト云ハ虎ハ獸ノ長ナリ。
 寅ハ一歳ノ首ナルユヘナリ。殊ニ強ノ訓アレハナリ。左傳襄
 公七年ニ慶寅慶虎ノ名アリ。後世明人ニ唐寅字伯虎アリ。六
 如居寅ヲ虎トナス見ベシ。

○卯 律書卯之為言茂也。言萬物茂也。○律歷志。肩節於卯。師古
 曰。節。叢生也。○釋名。卯。冒也。戴冒土而出也。○卯ハ二月律夾鐘
 ニ中ル。白虎通。夾字甲也。言萬物字甲種類分也。

☳ 雷天大壯ノ卦ナリ。春ノ最





中ナリ。寅ノ引伸タル陽氣ヲ陰氣ヨリ助テ四方ノ氣ヲ宣テ萬物叢生ス
 ルナリ。卯ヲ兔ト云ハ酉陽雜俎ニ月中有兔乃卯之屬也ト。枕林伐山ニ
 日中有金雞乃酉屬也。月中有玉兔乃卯之屬也ト。按スルニ日ハ陽ニシ
 テ内ニ陰ノ象ヲ含故ニ日中ニ鳥アリ。月ハ陰ニシテ内ニ陽ノ象ヲ含故ニ
 月中ニ兔アリ。酉ハ西方ニ配シテ陰ナリ。卯ハ東方ニ立テ陽ナリ。考知ヘシ

○辰 律書辰者言萬物之娠也。○律歷志振羨於辰。○說文辰震

也。三月陽氣動雷電振。民農時也。○釋名辰伸也。物皆伸舒而出

也。ト辰ハ三月律姑洗ニ中ル。白虎通姑者故也。洗者鮮也。言萬物皆去故就其新莫不鮮明也。

澤天夬ノ卦ナリ。辰ノ字娠ノ字ノ意ナリ。娠ハ振ト通ジ。

フルウト訓ス振發ノ義ニテ不殘整ナリ。羨ハ延也餘也。陽

氣盛ニシテ萬物茂生ジタル上ニ辰ノ時ニ至テ萬物益伸テ





餘アルナリ。辰ヲ龍ト云ハ易ノ說卦ニ震為龍ト是ナリ

○巳律書巳者言陽氣之已盡也。○律歷志巳盛於巳。○白虎通

巳者物必起。○釋名巳巳也。陽氣畢布巳也。巳ハ四月律仲呂

ニ中ル。白虎通言陽氣極將微故復中難之也。重乾卦ナリ言ハ四月ニ至

テ陰氣盡黃泉ニ藏故ニ左氏傳ニモ正陽ノ月ト云リ說文ニ

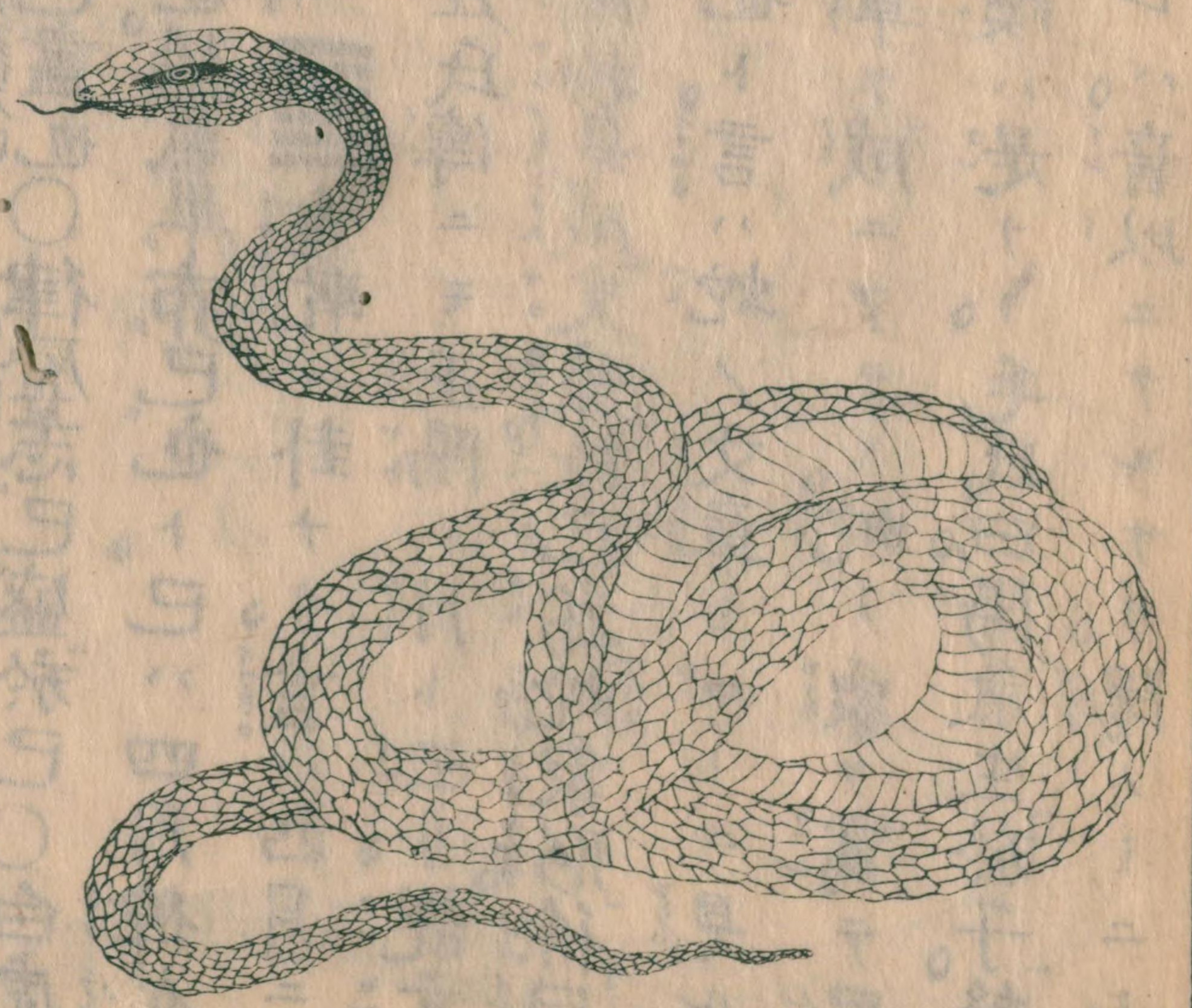
四月陽氣已出陰氣已藏萬物見成文章故巳為蛇象形徐曰巳

主蛇象蛇之變化有文章也ト言ハ蛇ノ文章ニゴトニ見ルハ

ニ因テ四月萬物見ニ文章ヲ成ニアテハ蛇ノ象ヲ寫テ巳ノ

字ヲナスナリ。巳ヲ蛇ト讀ハ是ナリ。毛氏曰陽氣生於子終於

巳巳者終巳也ト是ニヨレハ音以ニナルナリ。陽ノミニシテ



陰氣ナシトイヘ氏。五月午ニ至テ一陰ノ生ズルノ微氣ヲ中ニ含ナリ

○午律書午者陰陽交故曰午。○律歷志罽布於午。○白虎通午

物滿長。○釋名午午也。陰氣從下上與陽相忤逆也。午ハ南方

ノ位。五月律蕤賓ニ中ル。白虎通蕤者下也。賓者敬也。言

風妬ノ卦ナリ。陽盛ニ極テ已ニ含タル微陰今五月午ニ至テ

地ヲ冒シ出テ陽ニ交ル陽中一陰ヲ生ズルナリ。猶子ノ一陽

ヲ生ズルカ如シコ、ニ至テ陰ノ生ズルホト陽始テ衰ナリ。

説文ニ五月陰氣午逆陽冒地而出也。ト云午逆ハサカフナリ。

サカヒ向テ交ル交午ト同韻會ニ馬屬午晋姓司馬因改司馬





官為典午ト云字彙ニ馬生於午稟火氣而生スト云生於午ト
ハ五月生ルナリ王氏困學紀聞ニ吉日庚午既差我馬詩小雅
章午ヲ馬トスルノ徵シルヘシ

未 律書未者言萬物皆成有滋味也 〇律歷志味變於未 師古

也 〇白虎通未味也 〇釋名未味也ト 說文ハ味ノ字老ノ字ノ

意ナリ未ハ六月律林鐘ニ中ル 白虎通林者衆也言 〇 天山

遁ノ卦ナリ史記ニ因ハ未味ト通ス滋味トハシゲキアチハ

味ノ成熟シタルナリ五月午ニ生シタル陰氣六月未ニ至

テ又長シテ陽氣ヲ助テ萬物皆成熟シテ果ノ熟シテ味ノ至

テ美ナルカ如シ然トモ陰氣モ亦長スレハ陽氣モ亦消ス故





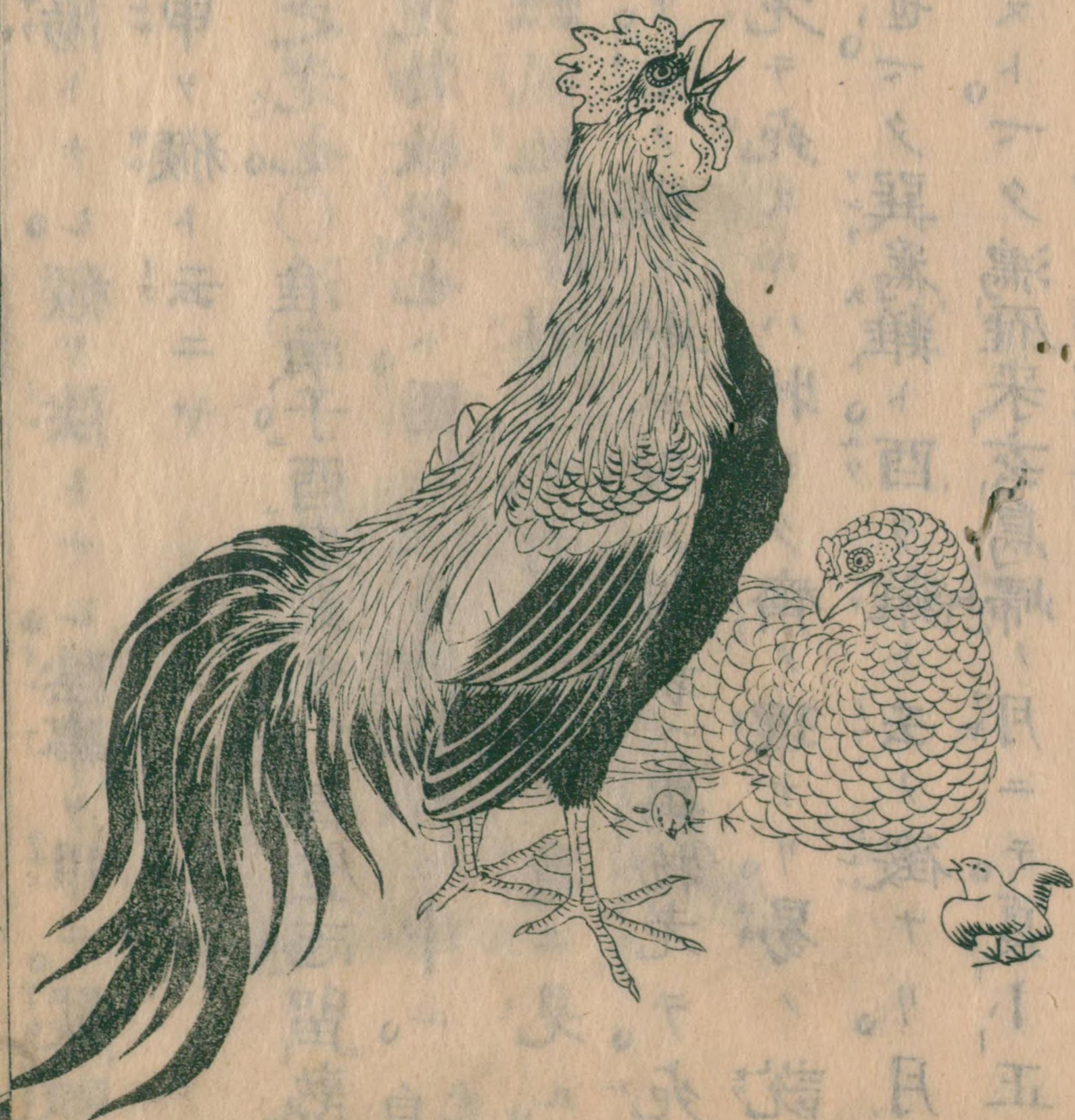
ニ律書ニ林鐘ノ下ニ萬物就苑トイヘリ。未ヲ羊ト云ハ上ニ
 云通リ陰氣六月未ニ至テ長シ陽氣ヲ助テ萬物熟スルノ時
 ニテ陰陽ヨク相群居スルノ意ナリ故ニ未ヲ羊トナス。陸佃
 曰。羊性善群於文羊為群ト未ヲ羊ト云ノ證ナリ
 申律書申者言陰用事申賊萬物。○律歷志申堅於申。○釋名
 申身也。物皆成其身體各申束之使備成也。ト申ハ七月律夷則
 ニ中。白虎通夷傷也。則汰也。天地否ノ卦ナリ申ハ明也。
 重也。約束ヲ重明ニスルナリ。約束トハユルマヤウニ堅束
 ルナリ。言ハ七月申ノ時陰氣體ヲ成事用テ萬物ノ一サニ賊
 ベキモノハナシモ嚴傷賊ナリ。陸佃曰。猿之德靜以緩猴之德



一、中...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...
 十一、...
 十二、...
 十三、...
 十四、...
 十五、...
 十六、...
 十七、...
 十八、...
 十九、...
 二十、...
 二十一、...
 二十二、...
 二十三、...
 二十四、...
 二十五、...
 二十六、...
 二十七、...
 二十八、...
 二十九、...
 三十、...
 三十一、...
 三十二、...
 三十三、...
 三十四、...
 三十五、...
 三十六、...
 三十七、...
 三十八、...
 三十九、...
 四十、...
 四十一、...
 四十二、...
 四十三、...
 四十四、...
 四十五、...
 四十六、...
 四十七、...
 四十八、...
 四十九、...
 五十、...



一、...
 二、...
 三、...
 四、...
 五、...
 六、...
 七、...
 八、...
 九、...
 十、...
 十一、...
 十二、...
 十三、...
 十四、...
 十五、...
 十六、...
 十七、...
 十八、...
 十九、...
 二十、...
 二十一、...
 二十二、...
 二十三、...
 二十四、...
 二十五、...
 二十六、...
 二十七、...
 二十八、...
 二十九、...
 三十、...
 三十一、...
 三十二、...
 三十三、...
 三十四、...
 三十五、...
 三十六、...
 三十七、...
 三十八、...
 三十九、...
 四十、...
 四十一、...
 四十二、...
 四十三、...
 四十四、...
 四十五、...
 四十六、...
 四十七、...
 四十八、...
 四十九、...
 五十、...



躁以鬻ト。コレ猿ヲ陽トナシ。猴ヲ陰トナシ。陰事ヲ用テ。嚴賊ノ意躁シテ鬻ヲ以申ヲ猴ト云ニヤ

酉 律書酉者萬物之老也。○淮南子酉者飽也。○律歷志留熟於酉。○白虎通酉者老物收斂也。ト酉ハ八月律南呂ニ中ル。白

通南任也。言陽氣尚有三任生齊交也。 風地觀ノ卦ナリ。酉ノ字老ノ意ニ見ル。

言ハ八月陰氣長シテ上ノ申ヲ助ル故ニ陽衰ヘ萬物老テ死ニ觸ントスルナリ。老テ死スルハ物ヨク齊ノ理ナリ。易ノ說

卦ニ齊乎巽巽東南也。一タ巽爲雞ト酉ヲ雞ト云ノ徵ナリ。月

令ニ仲秋群鳥養羞スト。一タ鴻雁来。玄鳥帰ノ月ニテ夏小正

ニ丹鳥羞白鳥トアリ上ノ卯ノ所合見ヘシ



○戌 律書戌者言萬物盡滅故曰滅○律歷志畢入於戌○釋名

戌恤也亦言脫也落也ト戌ハ九月律無射ニ中ル也言萬物隨

陽而終也當後隨 陰起無有終已 山地剝ノ卦ナリ戌ノ字滅ノ字ノ意ニ

見ルナリ九月陰氣大ニ長シ盛ニシテ萬物盡ク滅スルナリ

戌ヲ犬ト云ハ五行大義ニ月令九月之時豺祭獸因候配之狼

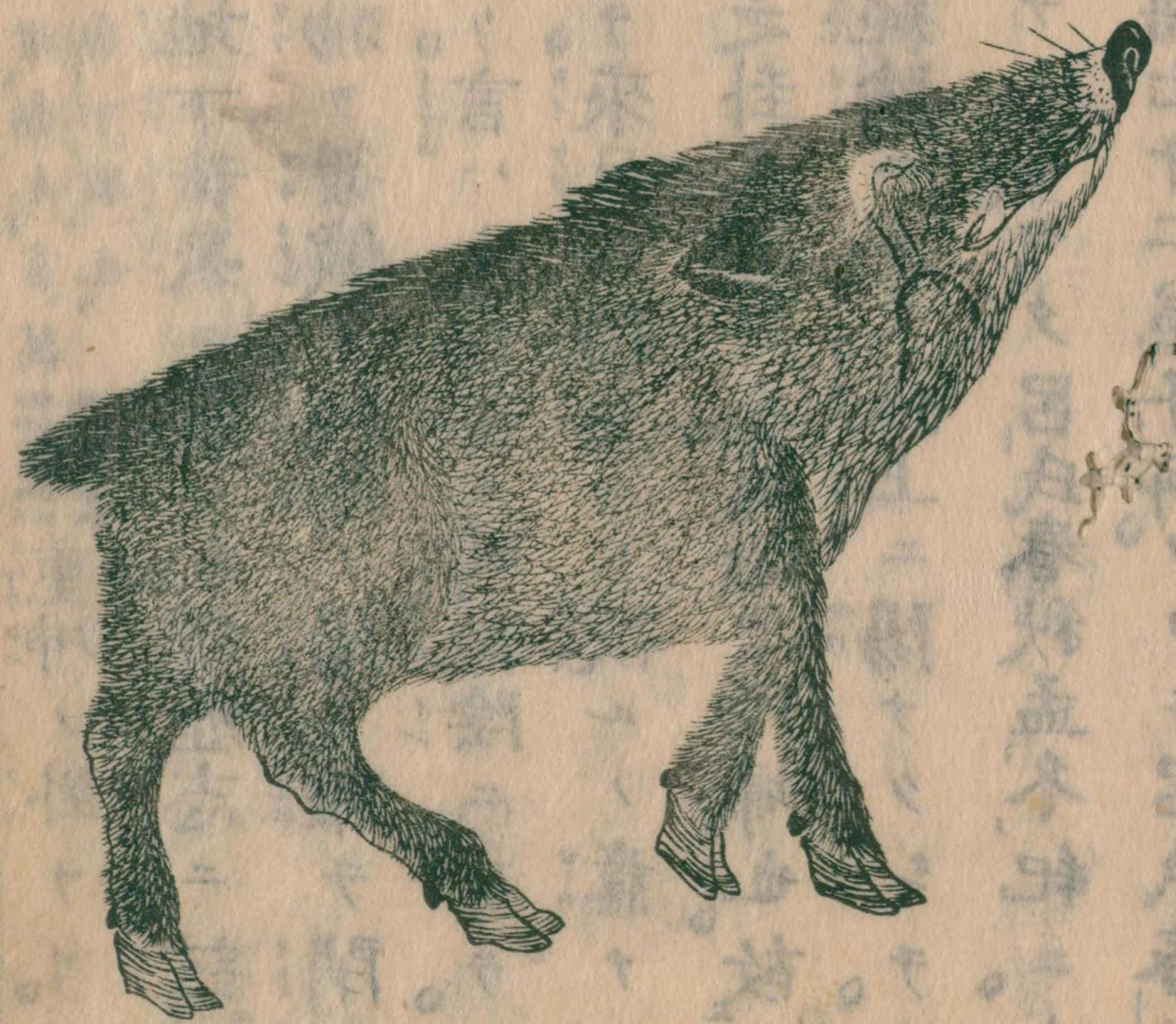
形相似說文云豺狼屬也云云豺ハ和訓ヤマイヌト訓ス戌ヲ

狗ト云ノ證ナリ

○亥 律書亥者該也言陽氣藏於下故該也○孟康曰閔藏塞也

陰雜陽氣藏塞為萬物作種也○律歷志該闕於下○釋名亥核

也收藏百物核取其好惡真偽也亦言物成皆堅核也ト亥ハ十



月律應鐘ニ中ル。白虎通鐘者動也言萬物應陽而動下藏也。重坤ノ卦ナリ。該ハ兼ナリ陽氣藏於下ハ地下黄泉ニ藏ル也。律歷志ニ該闕於下ト云闕ハ閉ト訓ス萬物ヲ兼藏テ純陰ノ陽ヲ雜テ閉塞テ萬物ノ為ニ種ヲナスナリ言ハ十月亥ノ時純陰ニシテ十一月一陽生ズルノ陽ヲ胎テ來月ヲ待産ント欲ルノ意ナリ。易ノ說卦ニ坎水也。正北方之卦也。勞卦也。萬物之所歸也。故曰勞乎坎。坎陷也。坎為豕ト純陰ニシテ地上ニ陽ナクシテ地下ニ陽陷ユエニ坎ヲ豕トナスト。マタ呂氏春秋孟冬紀ニ食黍與彘注ニ彘水属也ト。家語七十二弟子解ヲヨヒ呂氏春秋察傳篇ニ三豕渡河ノフアリ。家語呂氏譌ヲ云ニ非ズ三豕者隱

語也。巳者三也。亥者豕也。ヨク合ヒルヘシ。亥ヲ豕ト云ノ徵ナリ。

○右ニ云トコロノ律書トハ律管ノフヲ書ルナリ。律管ヲ

吹テ十二月ニアツルハ黄帝ノ作トコロナリト

○時ノ數ノフハ楊子大玄經ニ本ツク何ノ世ヨリ用シヤ知ヘカラス。今玄文ヲ出シ圖ヲ作テ其義ヲ示ス。玄文曰

子午之數九。子ハ十一月ナリ。九ハ黄鐘子ニ起リ。林鐘

ハ午ニ起ル。九ハ陽ノ數ナリ。黄鐘ノ長サ九寸圍九分。周易

乾初九ヨリ始ル。故ニ其數九ナリ。午ハ子ト向テ對シ。俱ニ

陽ノ月ナリ。故ニ午モ亦其數九ナリ。

丑未八 丑ハ十二月ナリ未ハ六月ナリ亦其衝也故ニ
 ハツ。衝ハツクト訓スツキ通スノ義向對スルヲナリ。陽ノ
 次ハ陰故ニ其數ハナリ

寅申七 寅ハ正月ナリ申ハ七月ナリ

卯酉六 卯ハ二月ナリ酉ハ八月ナリ

辰戌五 辰ハ三月ナリ戌ハ九月ナリ

巳亥四 巳ハ四月ナリ亥ハ十月ナリ皆對シ以コレツ

數ノ 故律四十二呂三十六

諸陽皆律ニ屬ス奇數九七五ノ

數ニ十一二合テ四十二ナリ諸陰皆呂ニ屬ス偶數八六四

ノ數十八ニ合テ三十六ナリ

并律呂之數或還或否。律ヨリ律ニ還リ呂ヨリ呂ニ還

ル向對スルヲ或ハ還ルト云律ヨリ呂ニ還ラズ呂ヨリ律

ニ還ラズ故ニ或ハ否ズト云

凡七十有八黃鐘之數立焉。律ノ數四十二呂ノ數三十

六凡七十八ナリ七十八ニ十二支ノ十二ヲ加ユレハ九十

トナル黃鐘長サ九寸ノ數ノ立シトコロナリ

其以為度也皆生黃鐘。黃鐘ハ天下沘度ノ本也度量衡

ハ固黃鐘ニ生ス子ヨリ亥ニ至リ一歳ノ數スベテ黃鐘九

寸ニ歸ス萬物黃鐘ヨリ生スルヲ知ヘシ十二支ノ數モ自

然ノ數ナルヲ。玄文ヲ熟讀シテ考知ヘシ時ノ數十二月
 數ト全ク同シ圖ニテ見ヘシ五行精紀ニ支干ノ數アリ
 夕輟耕録ニ甲巳子午九也。乙庚丑未八也。丙辛寅申七也。丁
 壬卯酉六也。戊癸辰戌五也。巳亥四也。トアリ
 本邦晝夜時ノ鐘鼓ヲ擊テ延喜式ニ見タリ

八十八二合六三十六
 一十二合六三十六
 一十二合六三十六
 一十二合六三十六
 一十二合六三十六

十二律ヲ分テ、
 陽六ヲ律トシ、
 陰六ヲ呂トス、
 律ハ帥也、陽氣
 ヲ帥ヒ導ヒテ、
 宣達セシムル
 ヲヘンナリ、呂
 ハ助ナリ、陽ヲ
 助テ功ヲ成ユ
 ヘンナリ、



支干考終

833
56

14275

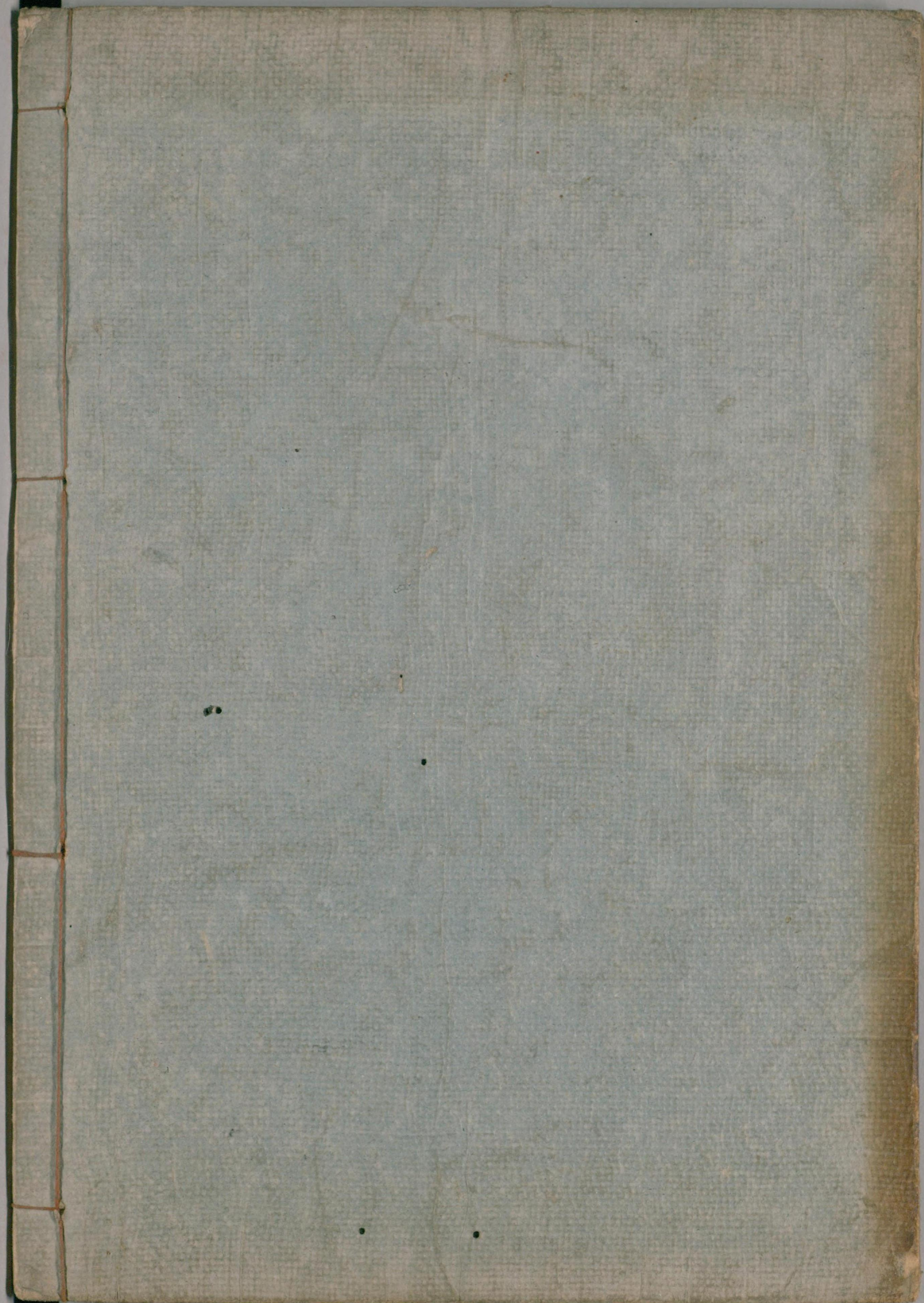
支干考
三十一
小西
齋藤宇八郎著

寛政五年癸丑春三月

彫工

馬喰町附木店
櫻梓堂如賤女

書肆



国立国会図書館 タイトル『支干考』 請求記号 863-56

ガラス使用